

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

JAPAN
Takemoto

羅門館
行
臺

12
4379
1



入2
4379
1-3
門號 4379
卷 1



水道橋文庫
井田喜久雄著

昭和九年九月二十六日購入

うるお仕事のものもあらずへ、男や女やどりたまふと
中よそよききてを名うるれがよもじり又名名も
ひてまわせりともかよけむかまくを板のまくを替
てみれをわ板の志。傳年月うつゆくまよちあ
うるもあく。わのれをやくよもじひもとどよが
こよみり。うわわとつきの意。くほくとく
傳年月うつゆくまよちあく。わのれをやくよもじひもと
うるもあく。わのれをやくよもじひもとどよが
こよみり。うわわとつきの意。くほくとく
あふれよぢん

文化八章

清水漁郎

アレキ乃向をもてやせの事
船をあふぎぬらへと近く縣船
みれすれよもやくはくよくせり。けり。それ
に此船のものまれて人をもうちもうちの
くはくよくせり。人をもうちもうちの
くはくよくせり。大さともたらふくたの口まねひ
のくそだれのくそだれのくそだれのくそだれ
手と身をねずむうきりとくわすげども

の處乃う一せせきよとえ此れ
那もとくはアスル御城也てテテナ
アキのサシカヘテヒシキシキタマ
キモニキアリケルトスラムモニ
アキノ翁セキモニハシミラシキモニ
ツキアシキモニ也後頼のわがのソレ
付年やうにモニシテサシキタマ
後年子年年をアリ萬人ヘモアラ

立ヒカツヒアヌモニタムハリハ
キモニ古ホ枯葉モニトモテアシテ紫と之
アシテ那年アシテ此志輝ニヒテモ
アシテ那年アシテ此志輝ニヒテモ

村田春波家集

縣門主稿目錄

第一集

村田春波集

第二集

小學古道集

萬葉を滿家古今文書閣刊

縣門主稿古今文書館刊

村田春波古今文書集古今文書館刊

第三集

村田春波古今文書集古今文書館刊

筑波子集

松田日記 清水後五

第4集

檜取魚集

白猿物語 高田直清

第5集

橋まつて記 木下清

香山日記 楠木元

清水後五後

村田春卿家集

之のうちにも見る

野川原とよけり ああうふのまがいなうゆきの初月

ちねのやうに

あきをあもつるはすよひのひよどりをむかへ来る

着のは、あふうはかくすかく

あちるやむもよあわよじがつのきのよはううち

はるれじめのひつゝくとくよよよ

とくたすのむは横山約なづくすくせばあら。那

のぐちく。冰とん川とよきく。うきうひのむすぶ。

（一）春の風を

むづきばつまきあらぬのあつめのいのちの
なみゆきとひより、さるの

くまくわくまく、こじかまわせたてらせのあはれもじら
あはれたてのゆうめれて梅の花つよとせばうじゆのあれ

春の風を

百萬の花がほおむくのとみざいねの枝ともがきくぬく

いの梅といふとせ

やうゆううめうたわらわらあらひの下にまくわくの

花アハマのうれしとて

うもむせうく、うゆめああうて歌の國のふくし

萬を

ちよどくわらまくあらとがわせうくよもがれと

わらえあらじよけのまくわくつくれる舟ふ様の

船まつみてはよせうべたると見て

うもむせうくわらまくう様のまくわくうてうす

寺落花とくわくと

うもむせうくわらまくう様のまくわくう

かくのとくわらまくうの國のふくし

との春のとすのこどもむらじでよ。

アレハルカのふくに國がうづき國へてひ
うほくふごしきたとゆまとみづくの
義のよそなめじてゆまことのよしはむれ
とらとよしのむけじで。とわらが、その
くすりとあくちとよもてやまとよいゆと
たまへ。やねやねうつ川へりをよむ
じだらねとくとくじくとくとくとくと
そよごひじてきよせじかべりたべるだ

もほんじあらうじふをもあひうのゆのう
すよしゆあむて。送とくともえとくつか
れとこれゆるのくほじきのゆく。あとよひ。
とくわいじばとくわいじばのくもんがくわい
えのくやかのくとよつゆとある大和のくわい
とくわいじのくわい

かくさのあじはすがくまくじの様とくわい
のくわいのくわいのくわいのくわいの花
のくわいのくわいの花

のくわい

のくわいのくわいのくわいのくわいの花

やよひつじとすふ難のふるて

あさみのにゆきうづくらむとまがく

夏のもへゆ

らめの夜ふかく宿人のあひだのゆくのむか
うのたと

タづきかけやどりかどれのけい垣れいとく

わくざくとせく

おまくらせすかくすがくのまくはくとせんがく

段の姫のふとくわく

にまきかくわくとくとくのまく

又月七夕の夜がえ歳の大人お家よそにはじた
るたぬのよりいでくわ

や、さくがめつこくすくあるせづくかくとくを
おなず、秋初秋の夜物といふと

、あがねいつのまなうやうのやういのまくあひよち
七夕もよし

ちまくにゆきまよあらかのものばくよみかくよ

あく

たあばくのまくとくとくとくのせんとあく

まのあつてくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ほんのまことに前田のじゆうあらじゆえん

月子

うよかねきじよもあらのまにいへりやまほのめ
ひよとくのりのいづみとてまか
月ぐれとくとくとくのやかくわがゆのゆかく
久くのあめいまとくわくよとまくよとまくよと
やからりあら

よしのまことかわくわくのよのくわくわく

月面の月を

まよはくとあるはくとあるはく

月と見てよゑは

おのうといふかくかくがのあわのうがくさく

月面の月を

よ渡せよややかくわと見せよばのゆゑのゆゑ月

月の月を

おのひりおきよしよくよかくよくよくよくよく

月子と夜あらわにつむかよかよ

月流みゆのよとよくめどものゆよとよく國よく

よくよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく

よくよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく

せんじゆくせんじゆくすはせきえいはせはながくとくかくま
ま。いへらをかく圍みあせせじてくわくわくとくあく。
うべたのくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく
くわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく
や。おおけいき。のうかくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく
とくわくわく。

「西子とおおきのうかく

るを。おおきのうかくとくわくわくとくわくわくとくわくわく
とくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく
とくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく

きん

麻と

は。と。おおきのうかくとくわくわくとくわくわくとくわくわく
とくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく

居す

じ。おおきのうかくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく

とくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく

あ。風と。おおきのうかくとくわくわくとくわくわくとくわくわく

ねむ。

ゆ。おおきのうかくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわく

席を

わざわざあつたまわるあめのいわの地風

猪負鳥

うそほじかむかわすよなむさむがまかせ
兼久と

まーありあああああああああああああ
ち月十ニリの萬へ一月十日てうかがく

かく

さよかはまよかはまよかはまよかはま
萬端のねよ秋風ええ
もよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

えとえとえとえとえとえとえとえとえ

けつよ。あとふと風に頃か。あくたら。あく
はむか。あく。ひくも。ふく。かたひく。
うぐにあれ。うぐ。うぐ。あなたよ。秋よ。た
れ。おゆうく。おゆく。のむ。

ほよ。あわあわあわあわあわあわあわあ
の秋なみ

なづ月が。うきかの福。福。うきかのちよかう
せつ。おののく。おののく。おののく。おののく。おののく

おののく。おののく。おののく。おののく。

ひさかのむやもいとす。それがたゞのまこととす。
さるは様ふのちゆゑむるのとが、はう。
にせーを。しれば、うそをつかすて。あらがむ。
くよくよ。じまうる。うそをなすか。あらがむ。
あつあつし。だいらう。なま。おもかく。よつて。
に。かくねきあて。よせ。むかし。いわゆ
ぢと。おと。のと。のあ。おき。くへと。あづと。
の。くしなりと。おゆきと。よ。

まゆと。かの。おせ。おと。を。くろ。お

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

あ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

福。福。福。福。福。福。福。福。福。

う。う。う。う。う。う。う。う。う。

十。百。七。日。が。底。の。大。地。の

ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

あ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。

ちくまにほんぢがるのうらと見ゆて

せんじゆと

もふもへておきつてあいびきひし機関よかわらき

あはやまと

みのりのえのたまひまじよぬくにまのうづられ

ほくのあと

のくさよあごのすあむきくのまつまく

のづかなるも地井と

かづくはあめのほのまきくまくわくわくわくやく

麻鷺の神のまことぬがしきが家にて

かくすのかくだくひのむかめでこくくのとみや

旅日

ひるのまほるのほくまくまくの、ひのふくく

あくを

かくすのかくのほくまくまくの、ひのふくく

あとうとやく

むくの海すやくまくまくほくまくまくの、ひのふくく

泊は

あるすくすくとくにけ、凄風もしくよまだうだうある

志度のくよなととのほよのうちでよも

答志

つ。やまと。むかの御事のまことに。既に。はあよひ。

鳥羽

坂手嶋 菅 鳥

和具嶋

よこのて。ちく。一。あ。たなまよ。し。一。つ。よ。まよ。い。び

伊良鹿

神。鳥

山。鳥

旅の三つと

まわるたびふのうだ。そつもかわるがて、こよとひなうへ

あじだらへとがもへ

まわるのをもへとがもへ

ひだりもへとがもへ

はかみのれきてとせんとせんのうだ

はかみのれきてとせんとせんのうだ

まわるたびふのうだ。そつもかわるがて、こよとひなうへ
まわるのをもへとがもへ

あじだらへとがもへ

ひだりもへとがもへ

はかみのれきてとせんとせんのうだ

はかみのれきてとせんとせんのうだ

はかみのれきてとせんとせんのうだ

はかみのれきてとせんとせんのうだ

はかみのれきてとせんとせんのうだ

山折やをたぢみくあり

あやのすかひあくさうやすのゆでのべのすがのを

橋ちういのりもよ旅人ゆり

すの川きく橋かくよぎよちてながまにへらが

たび人の跡よ月みづる風うふと

春の光をもつあすまたじきのあは月と

月の聲よ旅人やぐれり、うすえ

まつはまかはまかまようのあよが旅とくとく

屏風よ浪名の橋とるよのうてゆくあ葉

たびむたむよわざくわよ、浪名の橋の秋のう風

年人あすく、るよのうてゆく

たすかほる、のちとあくちやがくとなごとあはく、

成主うむちめめみそりけよこよみ

うじいあ、きわくもく、がんじくは、様やこきつ、せう

うね、あうぶ、秋、きよづく、もくちもくく、うきく、せう

うみれ、みれ、ちのと、みだり、もくじのうきく、う

きく、もくじ、みだり、もくじのうきく、う

秋のきよづく、れもく、ちのと、のいもく、は

もれ、おのばるも、いきゆく、おもひて、のよだくな

は、おどよいのちと、とくものとくわくとくで、しらぢ

まの。まよひよく。おのぞく。おとづれてゆふ。
せり。ゆきゆき。ほんのよしや。もみぢのよしや。
おちなり。あぐも。るねのしおひそよつてたるへにて
をやく。う蘿をよけたむ。おのれいとようすくじ
れぞ。生の。かのうかのう。うよみどりなり。

なめらかの。みどりの。かの。あよぎたり
くわく。ねの。めぐらわ。かの。かきたる。風の
あやくと。アハ。

あたご。アタゴ。やめ。なまくら。よたよた

橋の。常樹。う。方。あめくら。の。く。まき。が
哉。大人の。なよく。は。ま。く。と。の。う

と。な。よ。み。く。た。お。な。む。く。ん。よ。み。よ。く

も。歌。み。で。り。に。

花。ア。ふ。は。さ。う。つ。く。ば。む。ち。む。す。し。や。く。く。
み。ち。う。え。お。お。ち。う。ゆ。く。も。く。が。ハ。あ。す。く。も。く。ら
き。ま。の。は。み。く。ん。の。匂。の。め。ぐ。う。ハ。く。ね。う。つ。や。お。お。う
き。

う。う。ふ。と。あ。ま。と。ハ。く。く。が。な。か。ま。は。き。て。く。う。お。と

あ。歌。を。や。の。ち。て。も。ま。

ぬ。ま。ほ。ふ。と。あ。ま。え。と。く。う。よ。ほ。と。く。う。よ。ま。ま。う。て
む。か。今。じ。つ。と。は。ま。よ。か。よ。う。と。う。と。う。と。の。た。づ。む。

福雄うかうて三つよみけたやぢれあとひを

あうすくえ壁よきわらはまやせとおばよきを

歌へる

ゑなぐあやからくはれいをひへやがむち
うはくまくらまつきていくとみゆめをあすお
てとせめ、ひきだりとくわあやあはをさがり、
くらにかがちくはりわせ立だづきまへじで
うけのまのせとせあびかがふをよりにとくえ
のみびのせんのじとせとせとくわかくあき
うひのあたアレほのなとよもじまくが立とく

はの國あらうの橋のもねまへぬくわうかへす
のまつもくまくまくまくまくまくまくまくまく
よもつまくまくまくまくまくまくまくまくまく
よもつまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
人やうれいをえくのゆかうのゆかうのゆかう
ひよくのゆかうのゆかうのゆかうのゆかうのゆ
ゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆ
ゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆ
ゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆのゆ

なまくらを一とじゆくらむ。うあが。

わづらうすせよかのむを。うまくしらむたおの、

ののまくらるいふよせよ。

あはれほ雨とみや霧とみだれせんじゆか

まひらうり居のちつゝきよ。

居のね、やまとあかなうもひもすもすてゆくあ
るのほらさがしづかのうのとくとくとくとくとく

とくとくむのなれいざな。

わづらが、まくまくむむむむむむむむむむ
とくとくあはれとくのうきとくの月、うある

いともうてあくまくほき、わせあうあやーの

らなまや。

ちねやーおぬくらむよみちのよ。うまくしら
まくしら。あくよひよけよ。うまくしら。やもとくもとくもとくもとく。
うまくしら。ひよもとくもくもく。おまうげよ。だくぬとくもくもく
もも。よくもくもく。うよ。ゆのすしも。みくみく。うよ。ひよのす
ひよのす。うよ。ゆのす。うよ。あくも。せんじゆの。うよ
うよ。あくも。おぬくらむよ。うよ。あくも。せんじゆの。うよ
うよ。うよ。うよ。うよ。うよ。うよ。うよ。うよ。うよ。

たるれば、のちよかにて、もきや、よむるゆゑむ
きしゆよみゆて、おゆせと、やうやうあ
ゆきゆりやひよたよ。あひゆはゆば、いは
とあひゆゆゆゆ、あひゆ、もゆくのゆく、いは
ゆのゆゆゆ、あひゆ、おひゆ、いは
きあひよと、ひゆれゆゆゆゆ、ひゆゆゆゆ
いはしやむとよ。あひよ、ひゆゆゆ
らもあひよ、のちよわんと、おほゆや

يَرْسَلُونَ إِلَيْهِمْ مِنْ كُلِّ أَوْرَادٍ
أَنْ يَرْجِعُوا إِلَى دِينِهِمْ فَلَا يَرْجِعُونَ

よしやのまほ人あ

卷之三

おやう、人があひてのまゝ

ゆゑより誰のわがのあくまよかよどみのれは

アホはあはたをもとまわらをいたる初

のあまくはしづのよみ代きとひの

あづまはまくらをいたす

やうとほんのわのわのえをとくらむよ

はひもあれど十まかの月にてとよだよも
月のとよよふのすひうとあらひのとまと
あらむもるのあらむとひのくたまと
すひとよとあしのとよよひのとひうとまよやつ
のせきよかちか波わたりてよたまら
をもいゆきよたまよあくまのとよたまら
うのじよとふじよとふじよのとよたま
あくまくよよよよよよよよよよよよよよ
れへろあとつよじよよよよよよよよよよよ
一、うげきねれよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

の花秋の匂とおどり
たるがわくかわくへ、おほむらに

あれから八年のあいの間にやがてやがて
そのやうなふじてのれたり。かくまともや
はるかに、さへもとてたる。かの、あはれとす
ど、のまなきゆゑのゆゑ。うそをせよとて
よねどあらんのゆゑに、さへもとれよ
すぎやく

一おおたかの山のふるいはまのなかへとく
じあらわせたまゆるはまのなかへとく
いはまのなかへとく
ばよかの山のなかへとく
びよかの山のなかへとく
大山のなかへとく
よかたかの山のなかへとく
よかたかの山のなかへとく
の山のなかへとく
しやくじやくのなかへとく

よかたかの山のなかへとく
よかたかの山のなかへとく
ひよかの山のなかへとく
ひよかの山のなかへとく
よかたかの山のなかへとく
よかたかの山のなかへとく
あらわせたまゆるはまのなかへとく
アラハセタマユルハマノナカヘトク

おおたか

おおたかの山のなかへとく
おおたかの山のなかへとく
おおたかの山のなかへとく
おおたかの山のなかへとく

やくまのやうのれよかのくわのせんちじてた。お
よみかわるあつあつ。のゆかのだくふ
うほいやのがくとがく。がくくも
かくもあくよ。のゆかのくわのせんちじてた。
なじくくわのくわのくわのくわのくわのくわのく
うかうか。こくかくしてた。おとこくわのくわのく
にくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわのく
わのくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわのく

江上秋風動客情，
此夜曲中聞折柳。
何人不起故園情，
一聲吹盡北風寒。

かくのうへまつりかくのうへまつりかくのうへまつり
りたかと、まくはるのむのむちたかと、まくはるの
あくはるのむのむちたかと、まくはるの
いはるのむのむちたかと、まくはるの
ひがはるのむのむちたかと、まくはるの

まくはるのむのむちたかと、まくはるの

け。この事は、かくも、
この事の後、おまへに
て、夫とちよて、おまへ
の事とて、おまへの事とて、
おまへの事とて、おまへの事とて、
おまへがおれど、おまへが
みゆ。

彼の仕事は簡単だ。

「さうとまへへ、やつてゐるちの邊へあるじよ
ご舟は、せんのりとてよ、あくまでも、あらわす
らゆのてのよ。あくまで、うりぬきはやくも
そつとせん。こよどりて、はまぐれしゆふと。
あなぐのみしきあざや、よにまよをめぐらし。
うねはまちひいて、月流の、とおの、とおの
國とよせぐすれやつて、みことんあざがまく、いはづ
波うちのまほろて、百もものあつれい、いぢよ
ちあがめよ、又沙の、へまみのやう
ちのあきつゆふ處つり遙よこぎあらわす。

八十、つむじよりかたじよあくるよかとまくのすか
らんむかのくわんをとくとならぬよかとあらゆる
うかきと。度のやへれやへくは、うんやく
のきわのるふ。(むづる方)ハナ洞、うそてりよがく
やくせせわくらんをとくとあたす。うるをとくと
ハ常、ハ乃考、写、ハ源、ハみの日、ハの土、ハの山、
うてやく、おは西のたぐなむ。かとくのぶ、なむことの
あひ、うつむく、うつむく、うつむく、うつむく、
うつむく、うつむく、うつむく、うつむく、
お青

うとくあくとく、ゆとく舟の、うごちハ、えつたのをつりとね

もとく。

とくの神の店あよふとく祠

おのれ春、はうとくのうやく、とくねてこしのいたてす
つらく、ちのむのちおもてとみとたびの、うごく、まきの
ごとく、うごく、うごく、おこたかく、いひ、うひらをくやく
けく、あくとく。とくねてす、うごく、あくとくとあくと
ほつねやの神たちよほくをもくたすく、あくとくとあくと
ときとく。のくとく、あくとくとあくとくにま、おのれもくう
いあたのあくとくのあくとく、あくとくとあくとくとあくとく

そよひつも。那からよきもさしとく。いはゆる。かが
うあきらのと。とててのとててのとててのとててのと。
やまうとくわへて。ひまくじえのやかしきだり。あそ
へありきたまんば。ゆふとよかめたまくわくわく
へとくのとくのうこのと。あなづぶのれよすれ。べ
ちくみくわらへと。うこみのとくとわざとほくあや
上りのゆきうちのとくと。とくのひきとみを
てくとく。

村田春卿家集序

村田春卿墓碑

李茂先題

ふらふらすと。とあへにげて。とせのゆよへ。とくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
人あまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや
まやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまや
らとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

人わざく カねて ひじはなむらのひよこじよめ。
あひかみまへいよ／＼の音をよみいや／＼の音をよ
もひかみとあひとぬあひ。まほ 鶴のゆゑとひよ
もひかみまへいよ／＼の音をよみやびのなすや。このれ
人させよどんとじふ。ちうもあひとくひが
あひせばせととくとてあひしよ。たぢ 留もて名とな
そくととくとだらてなす。のち 育祖又忠之公の法ト入り。
祖又忠之公のを／＼とたかくよ。之 育道神社石を傳
（まつりか／＼みみやしまで）へよ。四世そよかくになし。
西御殿の御子也。市の御子也。古事記

あひふみや。のうとおもふま。こううきとくまつは
あひふみや。のうとおもふま。市のかのあひ
こうじてなすとあひとあひとあひとあひと
おひくうわゆてかくうづかうじのく。あひとあひ
あひくうわゆ。あひとあひとあひとあひとあひと
あひとあひとあひとあひとあひとあひとあひと
あひとあひとあひとあひとあひとあひとあひと
あひとあひとあひとあひとあひとあひとあひと
あひとあひとあひとあひとあひとあひとあひと

のれりある。あひだよなまじ。うちのあらわのとぞよ
さあがふくととめてちかくへりとふといづの
れを我坐間もつておうづのゆきとわあが
よひちてきく。

春のよのよのよのよのよのよのよのよのよのよのよ

梅子花

あくらむかのむのむのむのむのむのむのむのむの
てあくあくじがいば。お苗のむつまつ。縣のゆづ
み葉。はく。あくがくちり。おづか。おほひゆす。
まよせんはまよせん。古の書見玉の花をす。

おもひあく。葉のすよあく。めすよ。さけ
やく。おもひよ。おひな枝のさくねえ。さくく。さく
ねたく。おもひよ。おひな枝のさく。さくとくよ。さくは
く。あくらひよ。花のすよ。おひよ。おひよ。お
ひ本のすよ。えくく。おひよ。おひよ。おひよ。お
たよ。月あく。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。お
ひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。お
ひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。

豆歌

おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。おひよ。

挽歌

藤原維寧

世間者常無物鴨掛卷母文爾恐皇朝之貴吉國乃事
魂能古風雅乎丈支乃友者雖有愛八師人者雖有村
肝之心足波志歲月母彌遠長於毛布度知學波將為
等憑有之村田若子者朝露之銷安命天雲之別石往
者思空不安國嘆空不安國尋常爾堅日師事毛水沫
成世武為便不知考妣波足須里佐家婢稚草之妻藻
呂共爾休仰武補字知奈氣吉鬱蟬乃世乃憂言爭朝
霧之思迷互畫羽裳嘆比晚之夜者裳息衝明之將言
為便世武為便不知綾尔悲母

反歌

常世永母遊之行婆玉手筐謹不開互立返利來祿
丈支跡念倍留君尔長都伎乃永訣袁今日志鶴鴨

者とふ時をあひてゐる
おひひのまゝなりあひもき
おのひ おはりもれをねぐら
乃ちとひうむをみのあひとせ
ゆゑひそひたるせのあひとせ
めおひのやこしまりするひまほ
おひまほりとくをとくよめの
きゆうせんともあひれども

をうけてさの文をうけ
あすとおもわ
の師とまよひたる
あいも久きもれど、
あはせりてまよひ
かくはめにあはせ
わのれ

おちうほひたまをもとへて又の
所にまきとておもひあき
されまつりあふとぞそく一を
ととたるゆきとめりかにき
み、さうの巻けつまよもととく
めくすたむ

平家寛

跋三

父の子にいま務一時せうをあれ度乃
あす一実、生庵うけ覧ぬなと向來
不してひつとれ事としがくも詠
つまに父のむきやうよせうとま
さとあくまく成さうくえうだあはる
御ともまきのあくまうりほく小
ちみれやうわきをなしてん事れう
くはーせうとうじ詔々ナ詔々くも
きやくらむかねくせうもいはず

筆一枝もあつせて学ふ所ほどのま
その代とほ、しかもそんぞあると
てはうるわか物もとよほんとくさく
そぞうの心筋(とあわー)のよほすうち
もとがゆれてとく考(たせられ)れ
みやまいあつてもむらでりゆう
よなれももうそうちねりくわせる
城らおまう御筋(ごしん)と月の御
いそやちとくわくらうあはの心筋

じゆきよしもとふくらまくうううう
かううううううううううううう
文化の火とあはせ月

むらの
もとせ子

卷之三
目錄

